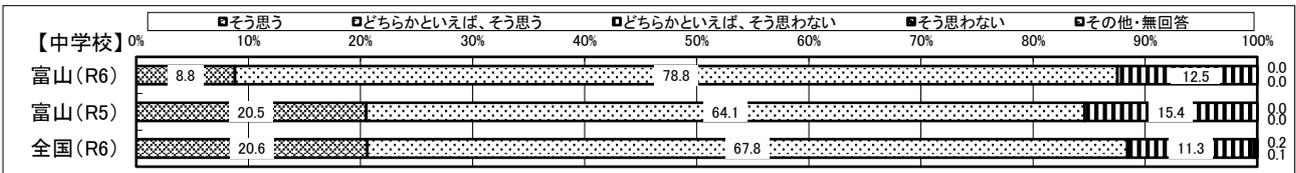
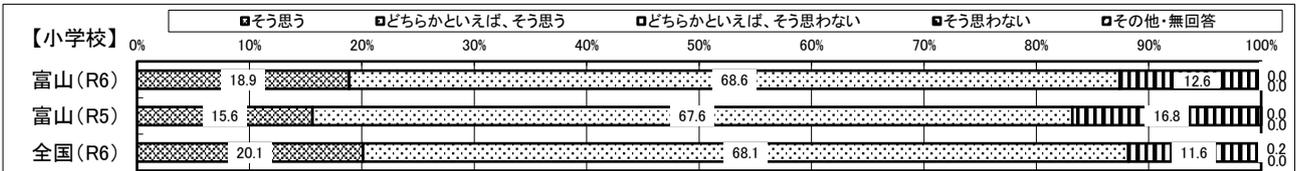


令和6年度 学校質問調査結果の概要と分析

1 主体的・対話的で深い学び、問題発見・解決能力の育成

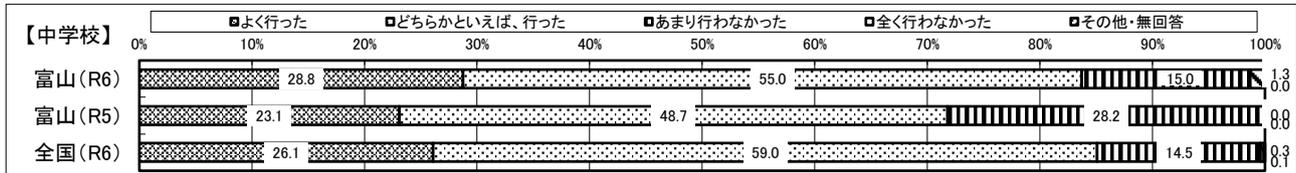
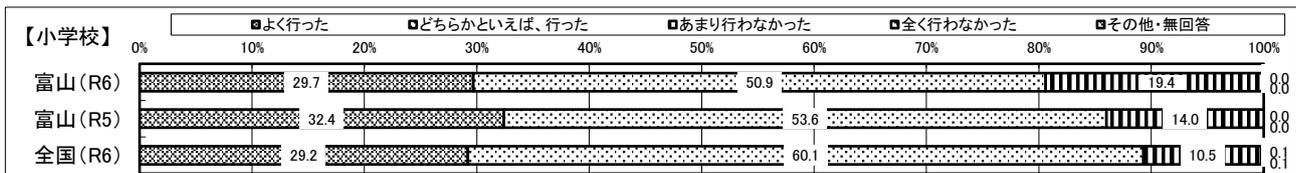
(1) 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか（質問小中25）

・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校は4.3ポイント、中学校は3.0ポイント増加した。



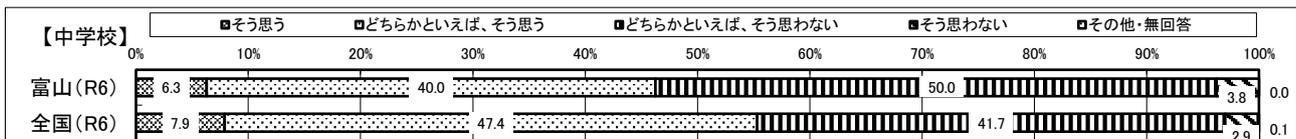
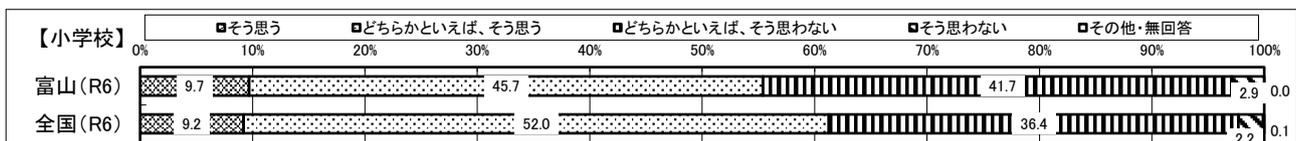
(2) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか（質問小中33）

・「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校は5.4ポイント減少し、中学校は12.0ポイント増加した。



(3) 調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか（質問小中29）

・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校は5.8ポイント、中学校は9.0ポイント低い。

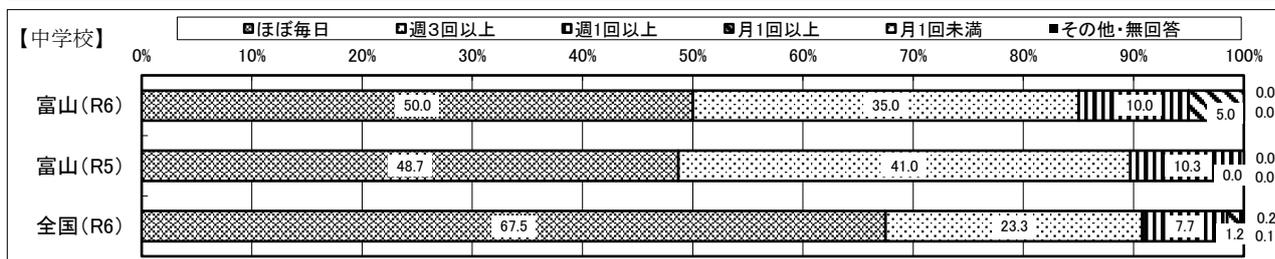
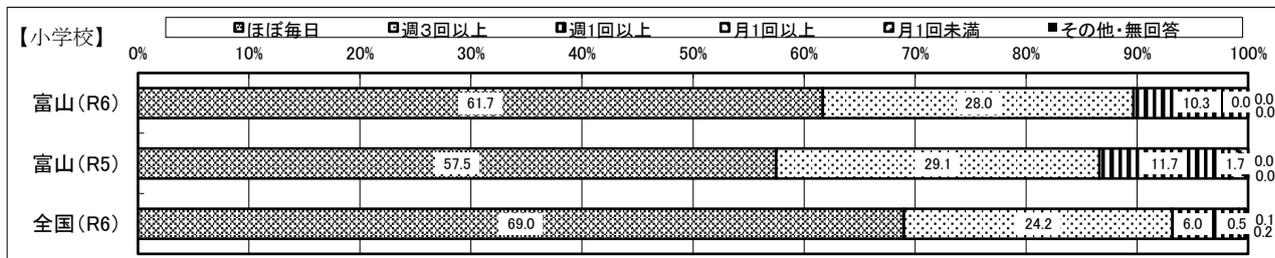


○児童生徒が主体的に学習を進めることができるよう、単元構想や学習環境を工夫し、問題（課題）意識や学習意欲を高めることが大切である。課題解決の過程で自分の学習状況を把握し、友達と話し合っって方向性を見直したり、必要な内容等について考えたりする場を設定し、児童生徒自身が学習の進め方や自分に合った学び方について考えながら学ぶことができるようにする。

2 ICTの活用

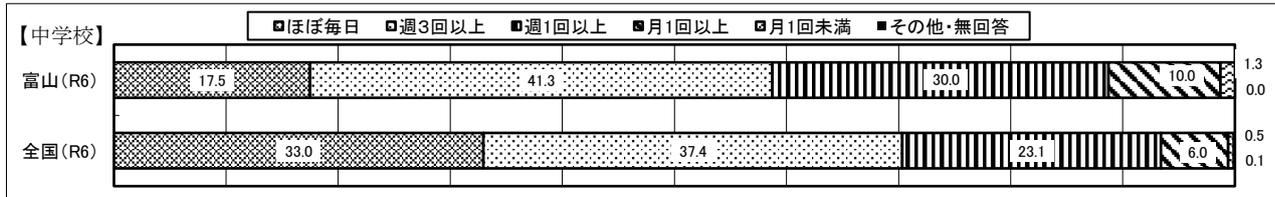
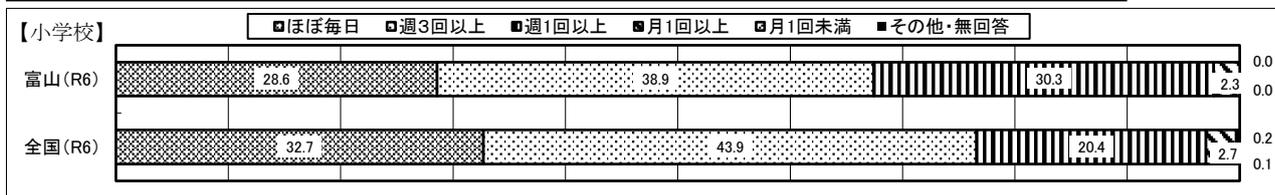
(1) 前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度使用しましたか（質問小56中60）

・ICT機器使用頻度が、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校の割合は、令和5年度と比べて、小学校では3.1ポイント増加、中学校では4.7ポイント減少した。全国と比べて、小学校は3.5ポイント、中学校では5.8ポイント低い。

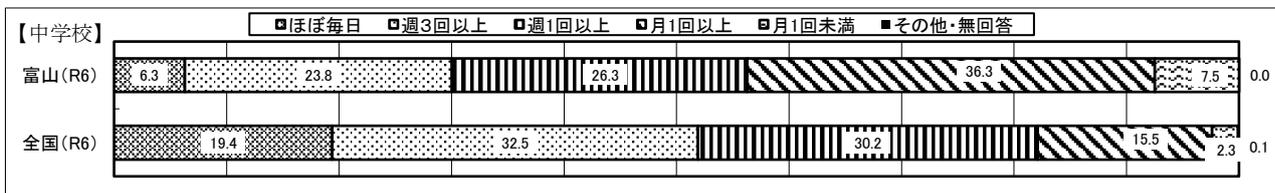
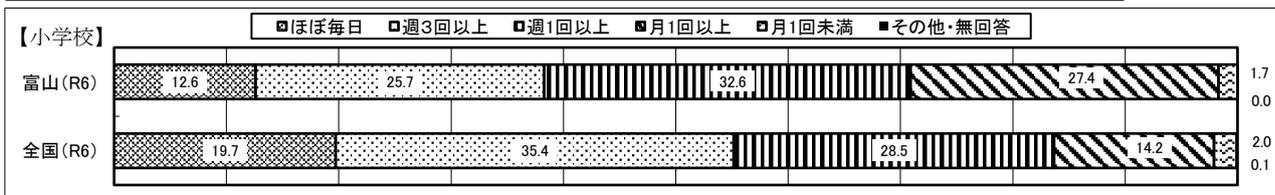


(2) 次のような場面で児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用させていますか（質問小57～61、中質問61～65）

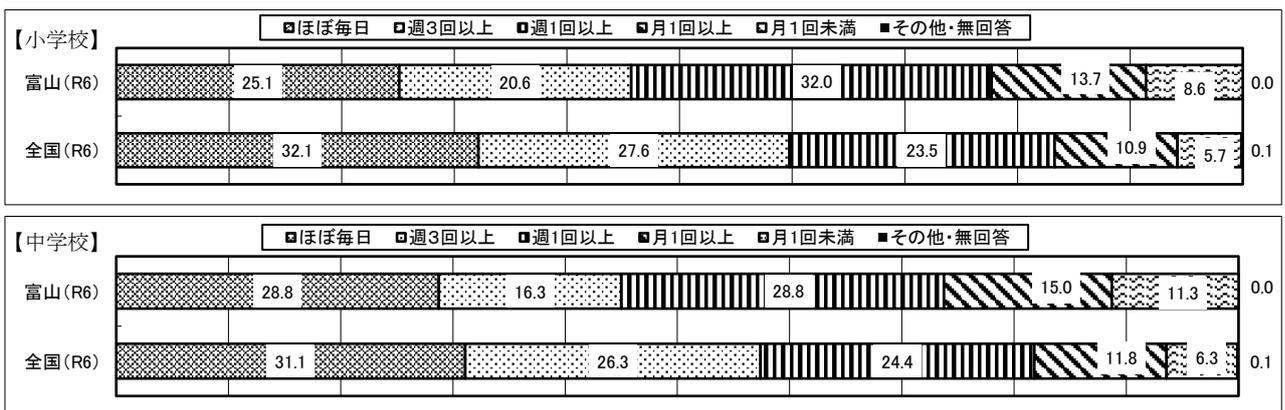
質問小57中61 調査対象学年の児童（生徒）が、自分で調べる場面



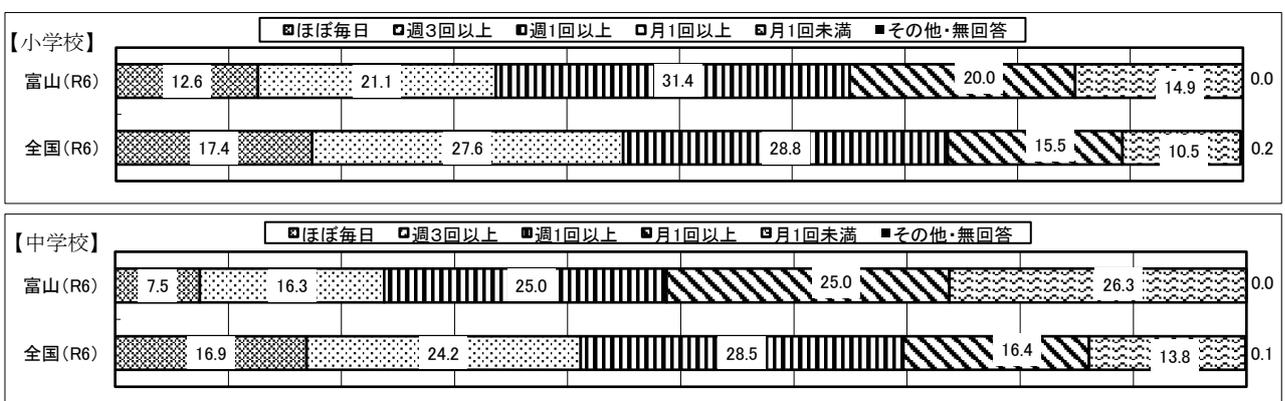
質問小58中62 調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面



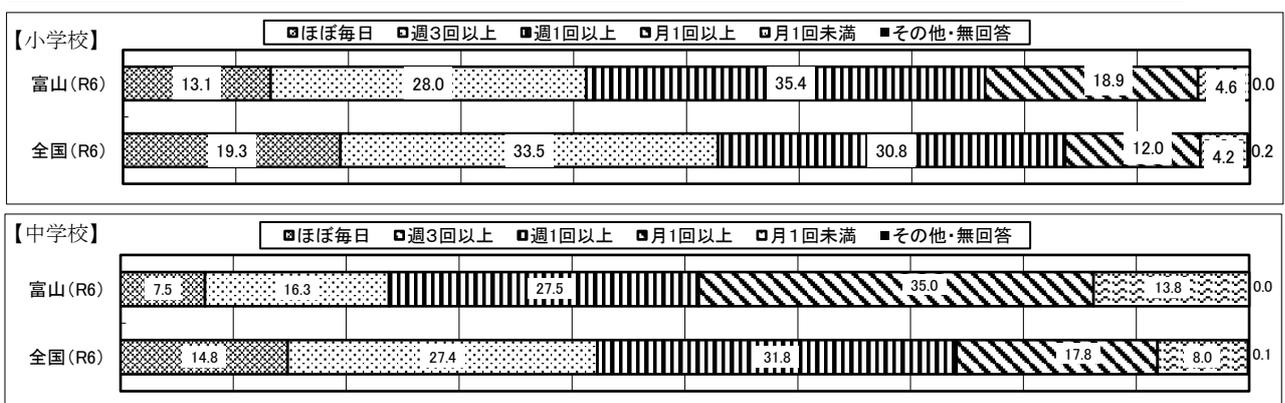
質問小 59 中 63 教職員と調査対象学年の児童（生徒）がやりとりする場面



質問小 60 中 64 調査対象学年の児童（生徒）同士がやりとりする場面



質問小 61 中 65 調査対象学年の児童（生徒）が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面

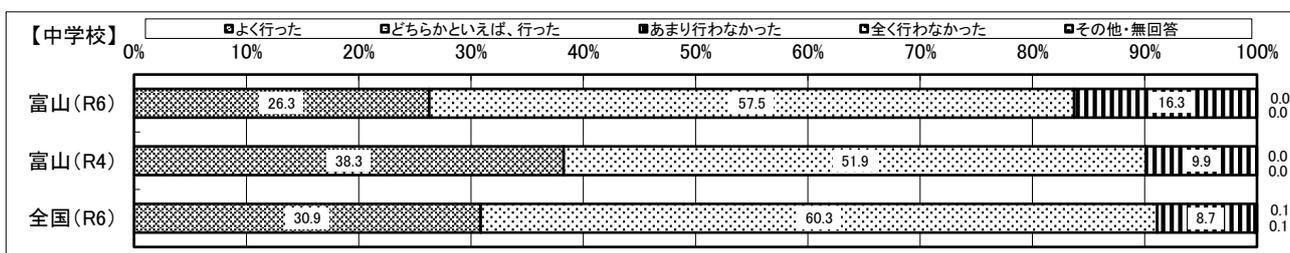
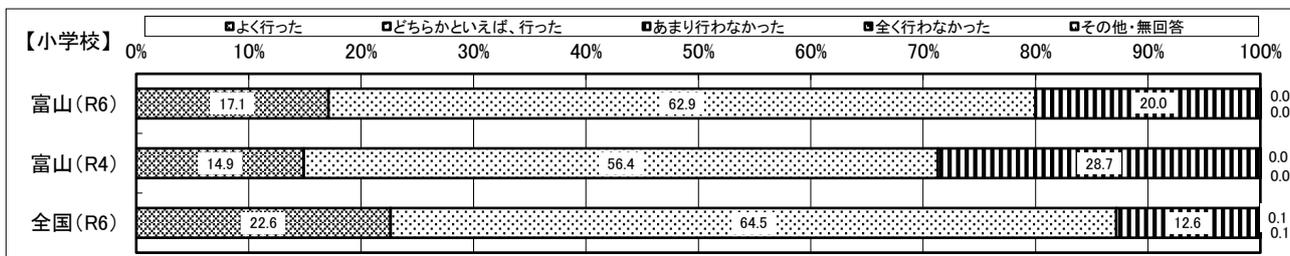


○各教科等で育成を目指す資質・能力を把握した上で、ICT機器を主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすことが重要である。児童生徒の資質・能力を育成するという目的に向けた手段の一つとして、ICT機器の特性や強みを生かし、日常的かつ効果的に活用していくことが大切である。

3 学習評価

調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか（質問小中40）

・「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、R4年度と比べると、小学校では8.7ポイント増加し、中学校では6.4ポイント減少した。全国と比べて、小学校では7.1ポイント、中学校では7.4ポイント低い。

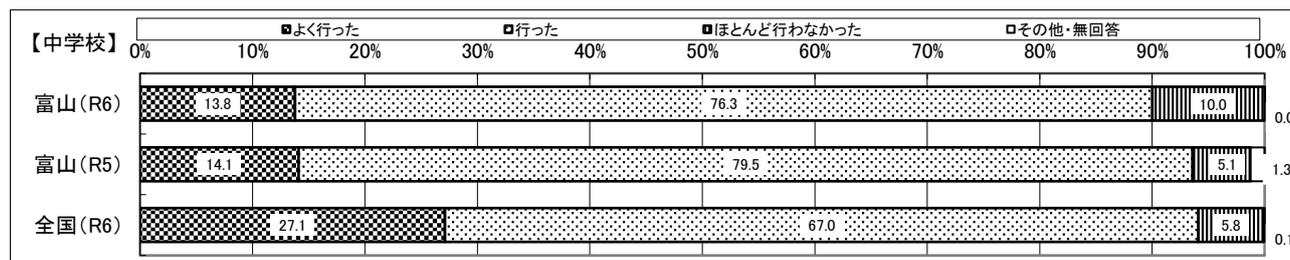
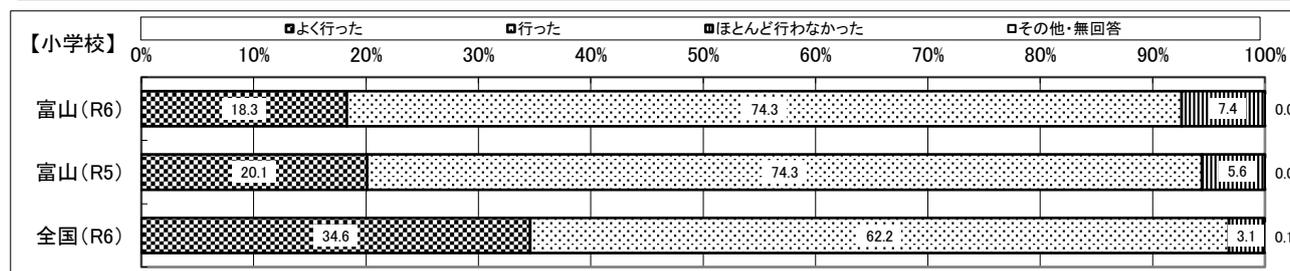


○学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価基準や評価方法等を事前に検討し明確にすることや、評価に関する実践事例を蓄積し共有していくこと、評価結果についての検討を通じて評価に関する教師の力量の向上を図ることが必要である。また、教務主任や研究主任を中心に学年会や教科部会等の校内組織を活用するなどして、組織的かつ計画的な取組に努めることが求められる。

4 全国学力・学習状況調査等の活用

令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか（質問小74中78）

・「よく行った」「行った」と回答した学校の割合は、R5年度と比べると、小学校では1.8ポイント、中学校では3.5ポイント減少している。全国と比べて、小学校では4.2ポイント、中学校では4.0ポイント低い。



○調査結果を踏まえ、自校の児童生徒のよさや課題を共通理解し、他学年の実態とも関わらせながら具体的な学力向上策を検討して、全校体制で教育活動の改善に取り組むことが大切である。